Ⅰ　実践

1　研究主題「自他の権利を守り，誰に対しても公正・公平にふるまう生徒の育成」

（1）主題設定の理由

本校では，日立市の研究主題をもとにサブテーマとして①「人権に関する課題を把握し，理解することで健全な人権感覚を養う」②「相手の心の痛みがわかり，自ら解決しようとする意欲と態度を養う」を付加している。

①については教師と生徒が人権教育の課題は何かということを常に追求しながら学んでいこうとするものである。②については，「思いやりの心」を育てる教育を各教科，領域の全分野について展開する必要があると考え設定した。特に本校の生徒は思いやりの心やコミュニケーション能力の育成が必要であると考えこのテーマとした。

（2）研究の内容

ア　人権教育の課題把握　（「茨城県人権推進基本計画」より抜粋）

①　子どもに関すること　　②　高齢者に関すること
③　障害者に関すること　　④　外国人に関すること
⑤　同和問題に関すること　　⑥　ハンセン病・ＨＩＶ感染症等
⑦　インターネットによる人権侵害

イ　一人一人を大切にした授業の展開（伝え合う力を高める交流活動の工夫）

ウ　道徳教育の充実

エ　思いやりの心を育てる活動

・あいさつ運動
・生徒会活動（クリーンアップ滑川，体育祭，潮風祭，各種募金活動）
・学校便り，学年便りによる家庭への啓発
・地域との交流（敬老会，三世代交流のボランティア活動）

2　実践事例

（1）第１学年総合「自分の生き方を見つめよう～福祉を学ぼう～」

ア　目標

○　福祉体験活動を通して，人間としての生き方やあり方を見つめ，よりよい福祉社会をつくるための課題設定及び課題解決学習ができる。
○　福祉体験活動のみならず，事前・事後の調べ学習を通して，ボランティアシップの意義を理解し，助け合い，協力し合って生きようとする「他人を思いやる心」「人にやさしい心」「進んで奉仕する心」を高め，自己の生き方を考えることができる。

イ　育てたい力

○　様々な人との交流や体験を元に問題に気づいたり，発見したりして自分の課題を設定することができる力　（課題設定の能力）
○　必要な情報を収集・選択し，見通しを持って問題を追及できる力　（問題解決の能力）
○　課題解決に向け，体験を生かし，資料やいろいろな調べ活動を通して，自分の意見をまとめる力　（学び方・ものの考え方）
○　話し合いや共通体験に積極的に参加し，活動を深めたり，広げたりすることのできる力　（学習への主体的・創造的な態度）
○　自分の体験や意見を工夫してまとめたり，発表したりする力　（表現力）
○　学習で身につけた見方・考え方を振り返り，自分の生き方やこれからの生活の中に生かすことができる力　（自己の生き方）

ウ　事例内容

福祉体験活動では，「アイマスク」「点字」「車いす」「高齢者疑似体験」「福祉についてのビデオ視聴」の５コーナーをローテーションする形ですべて体験した。体験後は福祉について調べ学習したものも加えながら新聞形式でまとめた。

（２）hyper-QU（よりよい学校生活と友達づくりのためのアンケート）の活用

本校では，学校経営の基本理念の「本校の生徒像」にある「豊かに」の具体的施策の中に hyper-QU アンケートの実施を位置づけている。このアンケートを取ることによって一人一人が学校生活の中で考えていることを把握し生徒理解につなげることができると考えられる。また，生徒自身が各自へのアドバイスをもとに，自分のこれからの学校生活について考えたり，人との関わりについて，それまでうまくいかなかった部分を改善するきっかけになることが期待される。

本年度も全学年においてアンケートを実施した。（５月及び１１月）結果を各担任が分析し，配慮を要する生徒（要支援群，学級不満足群，非承認群，侵害行為認知群等）への今後の関わり方について検討し，レポートにまとめた。ただし，アンケートの結果がすべてではないので，配慮を要する生徒としてあげられなかった生徒にも気を配っていく必要がある。

（３）思いやりの心を育てる活動

本校では，ほぼ毎日あいさつ運動を行っている。毎週水曜日は学級ごとに順番で生徒とその保護者及びＰＴＡ役員，月，火，木には生活委員，金曜日には生徒会役員が昇降口に立ち，登校してくる生徒へあいさつの呼びかけをしている。

また，生徒会活動として，クリーンアップ滑川（夏休みに部活動単位で地域や校舎の清掃活動を行う）や，各種募金活動への参加を意欲的に行っている。

（４）伝え合う力を高める交流活動の工夫を取り入れた授業づくり

本校では，「わかる喜びを実感できる学習指導の在り方」をテーマに学校課題研を進めている。そのテーマの具現化のために「学習集団の質の向上」「学び残しの解消」「言語活動の充実」の３点に重点を置き取り組んでいる。特に「交流活動」を積極的に授業に取り入れ，学び合いを通して，生徒の意欲を喚起するとともに基礎的・基本的な学習内容の定着を図っている。そして意図的なグループ編成などの工夫を加えた交流活動によって多様な考えを引き出し，練り上げながら誰もがわかる喜びを味わうことができることをねらっている。

コミュニケーション能力が不足している本校の生徒の実態に合わせ，様々な学習場面，グループ形態で交流活動を取り入れている。個々の学力向上だけでなく，互いに認め合える学級として，学習集団としての人間関係の向上を図っていきたい。

「あいさつ運動」

「ペア学習」

「小グループ学習」

３　成果

福祉体験活動では，福祉に関心を持つとともに障害のある人や高齢者の方の気持ちにより添うことができた。また，自分自身を見つめたり，これからどう生きていくべきか考えたりすることができた。

あいさつ運動や募金活動など生徒会活動への積極的な参加は個人差が見られるものの，複数年継続していることで意識付けがされてきている。

hyper-QU アンケートの結果を分析するだけでなくこれからの施策を各担任が考えることは，学級の実態や生徒一人一人にしっかりと向き合う態度や意識に対する戒めにもなっている。

Ⅱ　今後の課題

・教育活動全体を通して継続的に指導していくことで生徒の人権意識をより高め、実践できる態度を育てていきたい。

・生徒だけでなく教職員一人一人が人権に関する意識を高めるために研修を充実させていきたい。